

令和7年度 学校評価（児童・保護者・教員）結果と分析

児童・保護者・教員ともに25項目で、アンケートを実施

◎：肯定的な評価の割合が90%以上

○：肯定的な評価の割合が80%以上

△：肯定的な評価の割合が70%以上

	項目	児童	保護者	教員
児童の様子	1 学校に行くのを楽しみにしている	◎	○	◎
	2 授業は楽しく分かりやすいと言っている	◎	△ 78.3	○
	3 基礎的・基本的な学習内容が身に付いている	◎	◎	◎
	4 読書に関心を持ち、よく本を読んでいる	△ 74.9	△ 71.1	○
	5 挨拶や言葉遣いなど、基本的な生活習慣が身に付いてきた	◎	○	◎
	6 話の聞き方、発表の仕方など、学習のルールを守っている	◎	○	◎
	7 お互いに協力し、よいところを認め合って生活している	◎	○	◎
	8 集団生活のきまりやルールを守って生活している	◎	◎	◎
	9 元気に外遊びをしている	○	○	◎
学校の総体	10 学校は、学校教育目標の達成に向け努力している	◎	○	◎
	11 学校だよりや保健だより、給食だより、ホームページから、学校の様子が分かる	○	◎	◎
	12 学校公開、学校行事は充実している	◎	◎	◎
	13 体力向上に努めている	○	○	◎
	14 児童同士がかかわり合う場を、授業や行事で設けている	○	◎	◎
	15 地域の人材・施設・自然などを教育活動に生かしている	○	◎	◎
	16 環境教育や体験活動など、特色ある教育をしている	◎	◎	◎
	17 道徳や人権教育など、心の教育によく取り組んでいる	◎	○	◎
	18 たてわり班活動（異学年集団活動）による活動は充実している	◎	○	◎
	19 通知表は、児童の力が分かり、励ましの資料となっている	◎	○	◎
	20 児童が課題をもって、主体的に学ぶ学習活動が展開されている	◎	△ 75.0	◎
	21 きたコンやデジタル教科書などのICT機器を活用した学習活動が展開されている	◎	○	◎
	22 教職員は、児童への賞賛、励まし、間違っただ行動への指導などを適切にしている	◎	○	◎
	23 家庭との連絡をていねいに行っている	◎	○	◎
	24 学校全体が整理・整頓され、清掃が行き届いている	◎	◎	◎
	25 児童の安全を守る指導・対策がとられている	◎	◎	◎

[全体的な総括]

児童の肯定的評価が◎（90%以上）または○（80%以上）は25項目中24項目、保護者については、25項目中22項目が肯定的評価となっている。「児童の様子」については、「1 学校が楽しい」「3 基礎・基本の定着」「5 挨拶・言葉遣い」「6 話の聞き方やルール」「7 協力、認め合い」「8 きまりやルールの遵守」「9 外遊び」は、児童・保護者・教員ともに、肯定的評価が80%を超えている。

また、「学校の総体」では、「10 学校教育目標」「11 学校の情報公開」「12 学校行事」「13 体力向上」「14 児童同士のかかわり合う場」「15 地域人材等の活用」「16 特色ある教育活動」「17 心の教育」「18 異学年集団活動」「19 通知表」「21 ICT機器の活用」「22 教員の指導」「23 家庭との連携」「25 環境整備」「26 安全指導」の14項目において、児童・保護者・教員ともに、肯定的評価が80%を超えた。

[児童に関して]

肯定的評価が90%以上の項目が19項目、80%以上の項目が5項目あり、25項目中24項目で肯定的な評価であった。「児童の様子」は、9項目中8項目が肯定的な評価で、「1 学校が楽しい」「2 授業」「3 基礎・基本の定着」「5 挨拶・言葉遣い」「6 話の聞き方やルール」「7 協力、認め合い」「8きまりやルールの遵守」においては、90%以上が肯定的な評価であり、規律正しく、ルールを守り、友達と協力しながら、学習に取り組んでいると感じている児童が多いことが分かる。

また昨年度、肯定的評価が70%を下回った項目である「4 読書」については、今年度74.9%の児童が肯定的評価をした。さらに本に親しむ環境を整え、児童がすすんで本を読もうとする取組を計画的に実施する。

また、「学校の総体」では、全ての項目で、肯定的評価が90%以上または80%以上となった。安心できる教育環境が整い、教員の工夫した授業の下、教員と児童の信頼関係が構築されていることが分かった。

昨年度肯定的評価が70%に達しなかった「11 学校情報」(児童は、「学校での生活や学習のことを家の人に話す」)については、80%以上の児童が肯定的評価をした。今後も家族で学校での楽しい話題ができるよう児童の学校生活を充実させていく。

[保護者に関して]

肯定的評価が90%以上の項目が9項目(昨年度の2倍強)、80%以上の項目は13項目であり、25項目中22項目で肯定的な評価であった。また、肯定的評価が70%以下の項目は、今年度は1項目もなかった。計画した教育活動は、全てを実施することができ、土曜授業日に加えて各行事において公開をしてきた。「1 学校が楽しい」「3 基礎・基本の定着」「5 挨拶・言葉遣い」「8きまりやルールの遵守」「11 学校の情報公開」といった項目が高評価であったことは、教育活動への理解をいただき、学校運営での支えとなる。

また昨年度、肯定的評価が70%を下回った「4 読書」については、71.1%が肯定的評価となった。朝読書の時間を設定したことにより、児童の読書に対する興味・関心を高まり習慣化してきたのではないかと考える。

[教員に関して]

肯定的評価が90%以上の項目が23項目、80%以上の項目は2項目であり、25項目全ての項目で肯定的な評価であった。学校及び自らの実践や取組、努力に対して手応えを感じている教員が多いことが分かる。基礎的・基本的な学習内容の定着を図り、児童が学ぶことの楽しさを感じられるよう工夫した授業を行い、様々な教育活動に積極的に取り組んでいこうとする姿勢の表れであると考え。引き続き、児童の成長の成果として表れるよう、教員自らの授業力・指導力の向上に向けて研鑽に努め、学校組織全体として教育活動の工夫・改善を図っていく必要がある。

2 改善の方策

(1) 教育目標の重点目標の達成

令和7年度は、昨年度に引き続き、教育目標の目指す児童像にある「心豊かで思いやりのある子」を重点と設定し、「関わり」と「チャレンジ」をキーワードとして教育活動を行ってきた。対話タイム、異学年交流活動や様々な体験活動の実施を通してコミュニケーション力を高め、人との温かな関わりを構築してきた。人や物、社会との関わりに加えて朝学習の時間に読書タイムを新設し、本と出会い、読書の習慣化を図った。令和8年度においても、これらの取組をさらに改善し、学校力の向上を目指す。

(2) 学校からの情報発信

児童が学校に行くことを楽しみにしている様子は、保護者や地域にとって安心する基となる。次年度も学校ホームページの内容を充実させ、児童の活動の様子や様々な教育活動について、保護者や地域にも分かりやすい形で発信する取組を行う。また、今年度、保護者が活用しやすいように、行事のプログラムを紙からデジタル配信に変更した。今後もアンテナを高くもち、時代の変化に対応していく。

(3) 主体的に学び、考える児童の育成

NIE 教育、対話学習を朝学習で計画的に取り組ませ、児童の思考力、表現力向上をより確かなものとする。さらに、理数課題研究、英語スピーチコンテストを継続して実施し、主体的に学び、自ら考え、表現することのできる児童の育成を目指す。